平成２４年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研　究　種　目：一般研究
研 究 代 表 者：原 隆一（大東文化大学国際関係学部・教授）
研 究 分 担 者：なし

研究題目（和文）：
西アジア乾燥地域における伝統的水利用技術と農村開発

研究概要（和文）：

2012 年度、海外現地調査を 2 回実施した。

第 1 回は、2012 年夏、8 月 4 日から 8 月 26 日まで 23 日間、イラン国南部のシ-ラ-ズ地方と、東南部のビルジャンド地方の農村部を訪ね、1979 年のイラン・イスラム革命後の社会変化の再調査を行った。

シ-ラ-ズ地方の農村部では、長年にわたる干魃と、革命後の農業生産の急増政策のため、深井戸ポンプ灌漑による無制限ともいえる乱掘がたたり、地下水の枯渇、水質の悪化、塩分の上昇などで農地が疲弊し、農地を放棄し、近くのマルヴダシュト町への移住ラッシュが続いていた。

ビルジャンド地方の農村部では、15 年以上の長期にわたる干魃年が続き、水源である伝統的なカナ-ト水路の水は両手ですくうほどまでに減少し、下流にある耕地のコムギ、サトウダイコンなどの農作物は放棄され、かわって、上流にあった果樹園でのゼレシキ樹木（バーベリー）がそれにかわっていった。農業ばかりでない、むらの重要な家内工業であった絨毯織工房もまた、1978 年の調査時点で 80 軒あったものが 2 軒へと激減しており、むらの生業は壊滅状態となってしまった。ここでもまた、むらの若者を中心にビルジャンド町へ移住してしまっている。町は、急激膨張し人口 30 万ほどの都市へと変貌した。「産業化なき都市化」が今日のイランで見られる社会現象である。

ビルジャンド地方では、JICA の「イラン国、南ホラサ-ン州の乾燥地貧困改善農業農村支援プロジェクト（開発計画調査型技術協力）」が、3 年間で 15 か村の農村を対象とした調査を続けており、その現場を訪ねる機会を得た

第 2 回は、2012 年 12 月 23 日から 2013 年 1 月 08 日まで 17 日間、西地中海と大西洋に挟まれたモロッコ国南部のマラケッシュを拠点に、アトラス山脈のオアシス谷にあるアスニ、タメレルト、デムネイト地方、それに、アトラス山脈を越えて東部のサハラ沙漠地方につながるワルザザ-ド、ドラア、ザゴラなどの沙漠オアシス地方を訪ね、水資源利用を観察調査した。

ラバトにあるモハメッドＶ世大学地理学研究所のアブデッラ・ラウーナ教授（ 2002 年、大東文化大学現代アジア研究所の招聘研究員、Abdellah Laouina "Agriculture and Enviroment in the Arid Regions of Morocco" The Journal of Daito Asian Studies, No.3. PP.159-176, 2003) を訪ね、モロッコの乾燥･半乾燥地域における希少な水資源利用に関する意見交換した。また、マラケッシュ大学のベンアリ-教授の案内で、アスニやデムネイト地方にあるアトラス山脈のオアシス谷の水利用を観察調査した。

国内では、2012 年 12 月 01 日~02 の 2 日間、鳥取大学乾燥地研究センター主催の平成 24 年度共同研究発表会のポスターセッションにおいて、「西アジア乾燥地域における伝統的水利用技術と農村開発-イラン東部のビルジャンド地方の事例-」の題目のもと、自然再生エネルギーを利用した在来技術装置である山地農村の製粉水車や平地農村の風車製粉などから、小規模発電への利用の可能性を考察した発表をおこなった。